

# 目次

口 絵

刊行のことば……………松本市長有賀正

監修のことば……………東京大学名誉教授 文学博士 金井 圓

緒 言

凡 例

目 次

## 第一章 近代松本の幕あけ……………一

第一節 近代政治の開始……………二

一 戊辰戦争から筑摩県時代へ……………二

    戊辰戦争と松本藩    版籍奉還と藩制改革    伊那県政・県藩連合と豪農層

    廃藩置県と筑摩県の設立

二 筑摩県の改革政治……………二七



筑摩県政の開始と下問会議 初期自由民権運動と豪農商層

三 長野県への合併と民衆運動……………三三

筑摩県の廃止と長野県政の発足 国会開設運動と政党の成立 松本の政  
党と秩父・飯田事件 大同団結運動と松本

四 南北深志町と村の政治……………三五

戸籍区から大区小区制へ 戸長役場と連合町村 東筑摩郡の発足

第二節 伝統社会と文明開化との軋轢……………四五

一 近世的社会からあたらしい身分社会へ……………四五

県藩支配と戸籍の編成 筑摩県の成立と人口動態 松本市域の戸口と城  
下町の人々 身分差別解消の努力と徴兵令 城下町の変化と士族社会の  
動き

二 生活の文明開化と社会の流動化……………六七

松本市街地の文明開化と開化論 病院・医師とコレラの流行 火災・水  
害と防災 浅間・湯の原温泉と庶民の入浴 社会の流動化と人々の流入  
娼婦の存在と横田遊郭の成立

三 警察・司法制度の成立と民衆生活……………九三

近代警察制度の成立 自由民権運動と警察のうごき 松本監獄署と民衆  
の犯罪 裁判所・判事と代言人



	第三節 藩の経済から県の経済へ	一〇八
一	年貢から地租へ	一〇八
	壬申地券の発行	地租改正の実施
	町の地租改正	山林原野の地租改正
二	勸業政策と博覧会	一三三
	勸業社と開産社	博覧会への出品
三	農業と養蚕業	一三七
	農具と農業技術	松本農事協会
	養蚕業	
四	在来工業と製糸業	一三五
	座繰り製糸から器械製糸へ	在来工業と工場
	臥雲辰致と綿紡績	
五	城下町の商業・金融から脱皮するうごき	一四八
	城下町における遠隔地商業	町村内部の商業活動
	立と挫折	第十四国立銀行と松本銀行設立
六	交通と通信	一六三
	宿駅制度の廃止と犀川通船	中山道鉄道計画と七道開さく
	事業の開始	郵便・通信
	第四節 学校教育の開始と民衆の学習運動	一七五
一	藩校と寺子屋教育の廃止	一七五



藩校の改革	私塾と寺子屋	筑摩県学と小校の設立	一九一
二 あたらしい学校制度	……	……	……
学制発布と小学校の創設	開智学校の開校	洋風校舎の新築	中等教
育のはじまり	師範講習所と筑摩県師範学校	医学校の創設	
三 教育の衰退と復興	……	……	……
開智学校の不振と復興	長野県師範学校と能勢栄	郡立中学校から県立	
中学校へ	東筑摩郡私立教育会の創立		
四 民衆教化と民衆の自主学习	……	……	……
教導職の設置	博覧会と松本城の保存	新聞購読奨励と新聞縦覧所設置	
天皇巡幸と民衆の対応	若者組から青年会へ		
第五節 文明開化と民衆文化	……	……	……
一 新聞・雑誌の発行と地域出版	……	……	……
『信飛新聞』の発行と知新社	新聞・雑誌の発行と松本町	地域出版と	
書店			
二 民衆の学問と文化	……	……	……
漢学者の趨勢	漢方医の衰退と西洋医学	演劇と民衆文芸	
三 文化・宗教にたいする政策	……	……	……
廃仏毀釈と神葬祭への改典	神官の官制化と神社の格付け		



四 宗教と民衆の祭り …………… 二八三

寺の復興と仏教への再改典 社寺地の下げ戻し運動 祭りのにぎわい  
キリスト教伝播と民衆宗教

## 第二章 松本町・周辺村と町村制 …………… 二九三

第一節 松本町と県庁誘致のうづき …………… 二九四

一 町村制・郡制・県制の施行と松本 …………… 二九四

町村制の施行と町村役場 郡役所と郡会 県制施行と移行分県運動

二 日清・日露戦争と町村政治 …………… 三〇九

日清戦争期の町村政 日露戦争期の町村政

三 普通選挙運動のさきがけ …………… 三三〇

国政選挙と政党活動 普通選挙運動の開始

第二節 町村人口の移動と工業社会への移行 …………… 三三〇

一 戸口の変化と生活 …………… 三三〇

人口の分布と動態 町と村の近代化 災害とその対策 病気の流行と

医療機関 浅間温泉と山辺温泉

二 日清戦争と社会生活 …………… 三五〇



戦争への従軍 戦争と民衆生活 戦後の生活

三 日露戦争と社会生活 ..... 三五六

従軍者の経験 出征兵士の留守家族 戦時下の村々 戦時下の松本町

戦争の影響

四 警察・司法制度の整備 ..... 三七〇

警察行政の拡大と整備 裁判と弁護士

第三節 養蚕・製糸業の発達と鉄道交通の開始 ..... 三八一

一 農業・養蚕業の発展 ..... 三八一

明治二十年代の農耕 農事改良と奨励 養蚕業の発展 蚕種業の発展

二 地主制の確立と農業団体 ..... 三九一

地主制と小作証文 農会の成立と農事指導 産業組合の設立

三 器械製糸業の発展と女工たち ..... 三九九

片倉製糸の松本進出 発展する器械製糸工場

四 商業・金融の発展 ..... 四〇四

製糸業に対応する銀行の増加 あたらしい金融機関 ふるい商店街とあ

たらしい商店街

五 篠ノ井線の開通と通信 ..... 四一一



篠ノ井線と中央本線の開通 篠ノ井線開通の影響 道路交通・河川交通  
の変化 通信

第四節 近代教育の確立と松本……………四三三

一 整備される小学校教育……………四三三

尋常小学校と高等小学校の発足 御真影・教育勅語と学校行事

二 中等教育の整備と女子師範学校の開校……………四三八

松本中学校の充実 松本高等女学校の創立 松本女子師範学校の開設

三 実業補習教育と実業学校の設立……………四三八

実業補習教育 松本戊戌学校の設立 教育実業学校の開設

四 青年会と女性のうごき……………四四五

女性のうごきと愛国婦人会 青年会と小学校同窓会 禁酒運動と社会問  
題への関心

五 通俗教育諸団体の活動と施設……………四五五

明治三七、八年戦役記念館 学校体育と武徳殿 幻灯会と通俗教育講談

会 開智書籍館から松本図書館へ

第五節 あたらしい文芸の発達……………四六三

一 新聞・雑誌の発達と初期社会主義……………四六三

松本の新聞界と二大紙の成立 『松本親睦会雑誌』と町振興策 雑誌



## 『普通選挙』と初期社会主義

二 あたらしい文芸の台頭と革新……………四七二

旧派和歌の影響と新派歌会結成……………旧派俳諧と新派俳句との対立……………社会派

文学と近代詩

三 郷土の学問芸術……………四九一

絵画と彫刻

## 第三章 松本市の誕生……………四九五

第一節 松本市制の施行と市政……………四九六

一 松本市制の施行と市役所……………四九六

市制をめざした運動……………松本市の誕生と松本市勢……………松本市の発足と三役・

庁舎

二 松本市会の議員と活動……………五〇五

市会議員選挙と市会の会派……………初期の正副議長と市会運営……………第一次世界大

戦中の市会と活動……………第一次世界大戦後の市政・市会……………松本市の財政

第二節 町の生活と村の生活……………五三二

一 松本市の成立と市街地・農村部の生活……………五三二



市の成立と戸口の変化 国勢調査の実施 災害対策 保健・医療活動  
 スペイン風邪の流行 松本市宮病院の設立 水道の建設 市民の憩い  
 の場

二 第一次世界大戦と民衆生活 ..... 五四六

大戦の影響 生活の変化 工業の発展

三 社会問題と対策の強化 ..... 五五五

大逆事件と影響 米騒動 筑摩電鉄争議 松本合同労働組合 警察  
 署と裁判所

四 歩兵第五十連隊の松本設置とシベリア出兵 ..... 五七一

歩兵第五十連隊の設置 連隊と市民生活 シベリア出兵 軍縮と歩兵  
 第五十連隊

第三節 工業の発展と諸産業の変化 ..... 五八八

一 製糸業の発展と松本製糸場 ..... 五八八

製糸業の発展 女工の生活

二 水力発電とガス会社 ..... 五九九

水力発電と電力会社 松本ガス会社

三 養蚕業と農林業 ..... 六〇五

養蚕業の発展 農業 林業の展開



四 松本商業会議所と日本銀行松本支店	六二七
--------------------	-----

松本商業会議所の設立と運営 商業会議所の機能と商店法人化 日本銀行松本支店設置前の金融 日本銀行松本支店の設置 中央都市銀行の松本への進出 有限責任松本信用組合の発足

五 私鉄の普及と郵便・通信・電話	六三七
------------------	-----

信濃鉄道の開通 筑摩鉄道と島々線 筑摩電気鉄道と浅間線 郵便と通信

第四節 あたらしい教育思潮と高等教育の成立	六三九
-----------------------	-----

一 小学校尋常科六年制とあたらしい教員たち	六三九
-----------------------	-----

義務教育拡大と小学校校舍建設 松本市一校制と教育のひろがり 実業補習教育と特別学級 能力別学級と林間保育 すすむ幼児教育 松本盲人教育所の設立 あたらしい教師像をもとめて 自由主義教育と川井訓導事件

二 中等教育の拡充と青年教育	六六七
----------------	-----

松本女子職業学校の設立 松本第二中学校の設立 松本夜間中等学校と青年訓練所

三 松本高等学校の創立	六七四
-------------	-----

高等教育と松本市民の期待 松本高等学校の開校 松高生の生活と市民

四 松本市公会堂の設立と松本自由大学	六八三
--------------------	-----



松本市公会堂と市民の利用 市連合青年会と郡部の青年達 公民教育と  
松本自由大学

五 美術活動のひろがり ..... 六九一

美術活動のひろがり

## 第四章 十五年戦争期の松本市 ..... 六九五

第一節 大恐慌から十五年戦争への展開 ..... 六九六

一 松本市政と周辺村の行財政 ..... 六九六

市政と村政の展開 市と村の財政 普選による初の議員選挙 小里市  
長の再選問題 恐慌・不況対策と経済更生運動 経済不況下の市会議員  
選挙

二 経済不況・戦時体制下の県政と松本 ..... 七三三

普選による初の県議選 移行問題の展開と松本市民 選挙粛正運動と経  
済部出張所 昭和十四年の県議選 松筑地方事務所を設置

三 日中戦争の拡大と松本市 ..... 七四四

市と村の行政 市と村の財政 市議選と百瀬渡市長の選出 常会・町  
内会の活動

四 経済不況・戦時体制下の国政と松本 ..... 七四七



普選初の総選挙と五年の総選挙	五十連隊移駐問題と公共機関	国民精
神総動員運動と選挙	翼賛選挙による総選挙	貴族院議員選挙
五 太平洋戦争・敗戦と松本市	太平洋戦争下の市政と村政	戦時体制下の市と村の財政
	翼賛選挙による市議・村議選	敗戦と松本市・周辺村
第二節 恐慌・戦争と民衆生活	一 人口動態と不況・戦争の影響	大恐慌・戦争と人口動態
	二 社会運動のいきづまりと戦争協力	電灯料値下げ運動
	三 戦争の拡大と市民生活	治安維持法と労働争議
		社会事業と母の会
		常会の活動
		太平洋戦争開戦の日に
		食糧増産
		町の生活
		警防団
	四 連隊と満州移民	戦争と松本の連隊
		満州移民の増大
		第一次瑪瑯河東筑摩開拓団
第三節 経済の不況から戦時経済へ	一 経済不況と経済更生運動	市民生活の窮乏と産業動向
		松本市の経済更生計画とその後



二 経済の破綻と戦時統制経済	八四〇
昭和恐慌から経済統制へ	六九町商和会の商業振興策
組合 金融業と戦時経済	統制機関の商業
三 工業の軍事化と疎開工場	八五三
製糸業の衰退 工業の軍事化と疎開軍事工場	名古屋三菱の分散疎開
中部配電株式会社の統合	
四 自動車交通と軍用飛行場	八六六
鉄道と自動車交通	陸軍飛行場の建設
電話と郵便	
第四節 不況下の教育から軍国主義教育へ	八七七
一 小学校の一校制廃止と松本の教育	八七七
経済恐慌下の教育問題	松本市一校制から多校制へ
の設立	松本第二高等女学校の開設
市立松本中学校の設立	夜間商業学校と女子実業学校
松本ろう啞教育所	
二 青年婦人のうごきと松高生	八九四
青年団運動の高揚と戦争協力	女子青年団と婦人会
松高生治安維持法違反事件	松高生の青春
三 戦時下の教育	九〇九
紀元二六〇〇年と国民学校	中等学校と青年学校
松本工業学校の開校	



松本医学専門学校の開校	学徒勤労働員	学童集団疎開	
四 満蒙開拓青少年義勇軍の送出	………	………	九三〇
満蒙開拓青少年義勇軍	郷土部隊の送出と信濃教育会	斎藤中隊の悲劇	
歴史編III (近代) 執筆者	………	………	九四一
歴史編III (近代) 編さん関係者	………	………	九四三
あとがき	………	………	九四七